

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education 教育に新聞を

発行 北海道 N I E 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西 3 丁目 6 北海道新聞社内
☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826



道内勢目指せ全国 3 連覇

「わがまち新聞」今年も募集

学校と新聞をつなぐ N I E 活動を広めるため、北海道 N I E 推進協議会は今年も小・中・高校生を対象とする「第 3 回わがまち新聞コンクール」を実施することになり、4 月 18 日の加盟新聞社代表者会議で募集要領を決めた。作品の応募締め切りは 9 月 20 日。入賞作品は全国審査に出品されるが、本道の作品が 2 年連続で全国一の最優秀賞に輝いている。道内の新聞作りの水準の高さが今年も全国から注目されている。

9 月 20 日締め切り

テーマは地域の話題や名物、名所、人物などに限定され、個人、グループで作成し、学校単位でも応募できる。作品の大きさも B 4 判以上。手書きでもパソコンを使ってよい。同コンクールは N I E 週間(11 月 5 - 11 日)の

関連行事で、協議会主催の「北海道審査(9 月)」と日本新聞教育文化財団主催の「全国審査(10 月)」の 2 段階に分かれており、道内の審査で入賞した作品が全国審査に出品される。

過去 2 回とも道内審査の入賞作品が全国一の最優秀賞、小学校部門のトップである優秀賞に選ばれている。最優秀賞は第 1 回で「枝幸力ニカニ新聞」(枝幸町音標小、福島義己・教矢君兄弟)、第 2 回で「I LOVE 夕張発信局」(夕張市清水沢中 1 年小野真如月(きずな)さん、島谷祐希さん)が選ばれた。小学校部門の優秀賞には、第 1 回は「ゆうばり」(夕張市清水沢中 6 年小野真如月さん、島谷祐希さん)、第 2 回は「芽登新聞」(足寄町芽登小 4 年長野えみさん)が選ばれている。

昨年は小、中 9 校から 122 点の応募があり、道内で最優秀賞 1 校、優秀賞 5 校、団体賞 1 校が選ばれ、全国審査に出品された。本年度の応募締め切りは 9 月 20 日(木)で、26 日(水)に北海道審査を実施し、10 月上旬に発表する予定。全国審査は 10 月 19 日に行われ、11 月初めに発表、N I E 週間の 10 日(土)に東京で表彰式がある。作品には、氏名、学校名と学年、住所、電話番号を明記すること。応募先、問い合わせは当協議会(〒060-0871 札幌市中央区大通西 3 丁目 6 北海道新聞社内) ☎ 011-210-5802 へ。

戦後まもない昭和 21 年 5 月 1 日「日本読書新聞」に「私のすすめる教材 国民学校国語教科書へ」という「特輯(とくしゅう)」が掲載されている。昭和 21 年と



道教育大釧路校准教授 佐野 比呂己
(前釧路湖陵高教諭)

「国語科教材に新聞を」

柳田国男の興味深い提言

・鈴木三重吉の『綴方読本』
・竹山道雄
・「日刊新聞を」柳田国男
既にこの時期から柳田国男が「日刊新聞」を国語科教材として考えていたことは興味深いところである。柳

いる。
・「寺田寅彦を」仁科芳雄
・「心に太陽を持て」山本有三
・「千曲川のスケッチ」など
岡邦雄

田は、「次代の日本を背負ふ国民たらしむべく良い教材」の第一として「日刊新聞」をあげている。柳田の主張は実に単純明快であるが、現在我々が忘れ

かけている教育の根本に気づかせてくれるものである。「国民の大部分は、国民学校だけの卒業生がしめてゐる現状なのだ。国民が『日刊新聞』を自由に読めるやうにしたい。これはデモクラ

シーの普及といふ意味からでも役立つことと考へる。」柳田は、その後、国語科と社会科の教科書づくりに取り組みわけである。国語教育の究極の目標を「よき選挙民をつくる」こととした柳田。戦争という惨禍を二度と繰り返すまいという強い思いが、ここにかがえる。近年、新聞の購読率が大幅に低下しているという。我々教員も、新聞づくりに携わる方々も、この事実をもっと重く受け止めるべきではないだろうか。我々教員は、「日刊新聞」を自由に読み、そこから物事を考える力、子どもたちに身につけていられるか。N I E の根本にかかわる問題である。

あせるな教育改革

四月は入学の季節。一年生のランドセル姿は微笑ましい。たくさん友達を作りゆつくりと体と心を育てて欲しい。教室からリズムカルな朗読の音が聞こえた。最近学校では一斉朗読が復活している。時代が変わっても学習の基本は「読み、書き、計算」古くて新しい指導法が見直されている。急激な社会の変化に巻き込まれ、国会で国民投票法案、教育改革三案が審議中である。過去の教育論議は膨大な時間と労力を必要としたが、なぜそんなに急ぐ必要があるのだろうか。拙速な文教政策の変更は教育現場の混乱を招くだけ。道徳を正式な教科にすると発表した。若者の規律やモラルを問題化するより、政財界の不祥事を刷新することが先決。恥の文化を忘れていた指導者が多い。幸福の度合いを測る尺度に G N P (国民総生産) がある。ブータン国では G N H (国民総幸福) を唱え国民の幸福を願っている。生産力中心から脱却し自然、教育、伝統文化、コミュニティ重視の国策を切望する。大きな川は穏やかに堂々と流れるといわれる。教育改革も現場の声を聞きゆつくりと論議を深めて欲しい。(高)

文章への抵抗薄く

高校 N I E 研究会全国大会

新聞制作の効果強調

全国高校 N I E 研究会第 5 回研究発表全国大会が 3 月 25、26 の両日、「N I E でのばす学ぶ力」を主題に約 120 人が参加して、東京・十文字高校で開かれた。道内から参加した 4 人を含む教諭 11 人が、新聞を活用した授業の取り組みや新聞作りなどについて発表し、活発な意見を交わした。

大会冒頭、同研究会の総会があり、19 年度の事業計画、予算案を決めた。続いて、跡見学園女子大の藤澤伸介教授が教育心理学者の立場から「授業ではどのような力を付けるべきか」をテーマに記念講演した。

同教授は、学校教育の中で大事になっているメタ認知を取り上げ「自分の情報処理活動を客観的に把握したり、コントロールしたりするメタ認知能力の形成が今の高校生は不十分。授業の中で生徒自身に学習の習得方法を考えさせないとこの能力は育たない」と指摘した。



この後、十文字高校の佐藤祐介講師による 3 年生 11 人を対象にした現代社会の授業が講堂ステージで公開された。生徒たちは、国歌伴奏を拒否して懲戒処分を受けた小学校教諭の処分取り消し訴訟の最高裁判決について、新聞 4 紙の社説を読み比べたり、自分で見出しをつ

つけて、メディアリテラシーの大切さを学んだ。2 日目は、3 会場に分かれ、全国から集まった 11 人の教諭らが研究発表した。道内から参加した函館水産高校の山本かおり教諭は、国語表現の授業での新聞制作の効果について「文章を書くことへの生徒たちの抵抗感を軽減でき、新聞への興味を喚起できた」と強調した。

また、七飯高校の高瀬容子教諭は、国語表現の授業で、新聞から題材を取って意見文を発表する「1 分間スピーチ」を実施することによって、生徒たちの国語能力が伸びたことを発表した。

児童、生徒が新聞に親しんでもらうことを目的に、全国の新聞販売店で組織している社団法人日本新聞販売協会が取り組んでいる「すべての教室へ新聞を」運動の 07 年度道内実施対象校が決まった。

3 月中旬に開かれた同協会北海道本部、新聞 5 社 (朝日、毎日、読売、日経、北海道)、道 N I E 推進協議会の「3 者協議」で話し合い、継続 6 校と新規 2 校

「すべての教室へ新聞を」 07 年度道内実施校 過去最多の 8 校に

の計 8 校について、5 月から新聞提供を始める。06 年度より 2 校増え、過去最多となった。

この運動は、道内では「N I E のフォローアップ事業」と位置付け、札幌市内の中小高校に限定して 04 年度にスタートした。07 年度の実施校は次の通り。

▷新規 向陵中、札幌龍谷学園高

▷継続 新陵東小、幌西小、百合が原小、山の手南小、山鼻中、札幌旭丘高

N I E 実践奮闘記

札幌市定山溪中教頭

加藤 一郎



まず教師が興味持つて

3 月まで札幌西岡中で教えていたのが、前任校での経験がなかったため、タイムリーな記事を見つけては、国

情の読み取り、しやれや慣用句などのセリフを考えさせた。卓上四季や編集手帳、日常の記事などを使って、自分の考えや感想を短くまとめたり、5 W 1 H を押さえてたりする。

「作文」では、道新の「みらい君の広場」「僕の私の切り抜き帳」への投稿を通して、テーマに対する自分の考えや主張をお年寄りから小学生までの読者を意識して伝えられるように簡潔に書く。

生徒たちは、自分の主張を多くの人に読んでもらいたいという意識で文章に取り組んでいた。

道徳にも新聞記事を活用するが、朝日新聞の「いじめられてる君へ」を題材に、いじめられている君へ「の」の事を書き、にまじめに読むように指導している。

語、道徳などの授業のいろいろな場面で随時活用させてもらった。自宅で購読している読売新聞、学校での北海道新聞を中心にした新聞、道新記事ウィークリーのモニター、道新の大図解など、手に入るものは大いに活用した。

職員室用の道新には「後日 N I E に使用させてもらいます」と掲示して協力してもらった。一週間分はバインダーにつるし、すぐに使いたい記事はコピーしてタイムリーに使い、使えそうだとした記事はスクラップにしてチャンスを待った。

国語では、「5 分間テスト」に活用し、4 コマ漫画のセリフを隠して、ストーリーや心

もう一つ、N I E の研究会や実践発表会に参加し、他の先生の実践をもらって、それを自分流に味付けし直してやってみた。新しい技がどんどん増えていった。

新聞を使って子供達に教える、学ばせ、考えさせるためには、教師が興味を持って日々新聞を読んでいなくてはならない。記事を読み、感動し、学び、ニヤリとする。その喜びをタイムリーに子供達に伝える小さな授業が身のまわりにあふれることを願っている。

体験学習 基に新聞作り

(北海道新聞N I E推進センター委員・小田原賢二)

して「たんけんマップ」を作った。

そのあと、各自が一番伝えたいことを発表し合い、個人またはグループで新聞づくりに。子供たちは床に広げた模造紙を囲み、新聞の題字やトッピニュースのテーマにつ

実践校
レポート



「題字をどう書こうかな」。大島教諭の指導を受ける子供たち

見学したのは、2年生の生活科の2クラス合同授業で、両クラス担任の大島恵一、鈴木拓両教諭に障害学級の担任・梶沼登資教諭が加わった。児童数は51人と多く、教室は大きなブレイルームを使った。

最初に、子供たちが市内の公共施設見学、自然探索、りんご狩りなどの体験学習を通じて感じ取ったものを「振り返りカード」に記入して、黒板上にテーマごとに分類

いて話し合った。
個人制作の児童や女子
グループでは、「深川新
聞」「なかよししんぶん」な
どの題字がすぐ決まっ
てしゃがんだり、寝そべり
ながら色鉛筆やマジック
インキで色鮮やかな題字
を書き込んでいた。
男子グループは、どん

な新聞を作るかなかなか決まらず、中には意見の食い違いから口論し合う場面も。

大島教諭は二日前に起きた全日空機胴体着陸事故を例に挙げ、「飛行機の前輪が出なかったのはホルトが一本抜けていたため。新聞作りも一人でも仲間はずれを作つたら

「良い新聞は出来ない」と論じた。ブレイルームは活気に満ち、3教諭は子供たちに囲まれ、質問攻めにあった。

この日は、題字を決めどのような紙面にするかまでで終了。翌日から翌週にかけ延べ6時間かけて新聞を完成させたが、かべ新聞用の大きな模造紙を使った子どもたちは記事の文字サイズを決められず難しかったよう。

大島教諭が、「新年度で担任が持ち上がりになる。3年生でもすぐ地域学習の単元があるので、今回の経験を生かし、子供たちの生活圏に對する意識をもっと育てたい」と話している。

かべ新聞用の大きな模造 と話している。

日本新聞教育文化財団がまとめた2006年度「NIE展開状況調査結果」によると、北海道NIE推進協議会の取り組みは、NIE実践校の認定や機関紙の発行などが活発に展開されており、他都府県に比べ際立っている。

課題・問題として

活動

実践校の募集
では、協議会が独自に決めているのは北海道など19地域で、他は加盟新聞社や教育委員会に依頼し公募などで決めており、実践校の確保に苦慮している。実践希

いていない。
実践校の募集
では、協議会が独自に決めているのは北海道など19地域で、他は加盟新聞社や教育委員会に依頼し公募などで決めており、実践校の確保に苦慮している。実践希

ていないが、ほとんどが年一回のみ。年間7～8回のセミナー実施は北海道だけだった。実践報告書は、41地域の協議会が毎年出版しているが、機関紙の発行は北海道など9地域だけで、隔月発行によつてNIEの活動を頻繁にPRしているのも本道だけだった。

06 年度 NIE 展開状況調査

この調査は隔年実施で、今回は三重県を除く46都道府県の各推進協議会・推進組織が回答している。

教育関係者がコーディネーターや顧問として活動に助言しているのは、北海道を含む7地域のみ。他は「適当な人が見当たらない」などの理由で置

は、実践校探しや実践校の決定に苦勞している地域が目立ち、実践終了校の地域がフォローアップに対する悩みを挙げる地域もあった。また「ゆとり教育」がバッシングされて、NIE活動の環境が厳しくなっているとの指摘もあった。

07年度実践校
44校を推薦へ

07年度のNIE実践校の認定に向け、道NIEの推進協議会は4月18日の新聞各社代表者は会議で道内の推薦校44校を決めた。認定校は7月18日に予定されている日本新聞教育文化財団のNIE委員会ですべて正式決定される。

実践校は、同財団認定校と協議会を独自認定校に

分かれるが、授業に役立てる新聞の数（地域紙を含め最多8紙まで）、購読期間（最長4カ月）に変わりは無い。

推薦校全校が認定されると、過去最多だった06年度の43校（財団認定35校、協議会認定8校）をさらに1校上回る。

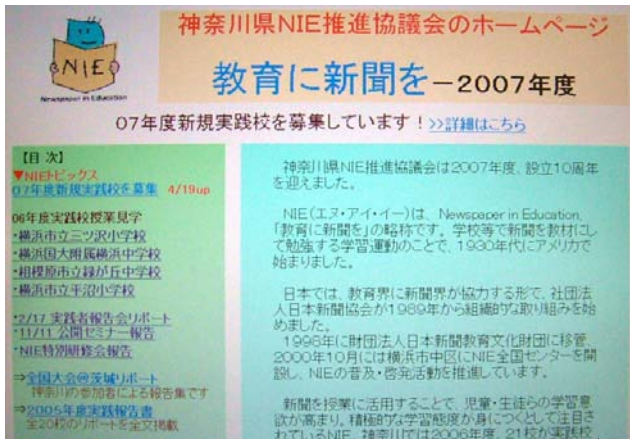
財団認定推薦校のうち継続校については、すでに16校が「内定」している。推薦校は次の通り。

◇小学校 札幌平岡公園、同前田中央、同山鼻南、旭川大有、同緑が丘、北見西、網走、浦河東部（以上継続）函館神山、深川一己、美唄峰延、帶広緑丘、豊頃（以上新規）
 ◇中学校 札幌定山溪、同藻岩、同もみじ台、函館鍛法華、旭川光陽、深川音江、室蘭北辰、本別勇足、上湧別、中標津計根別（以上継続）札幌稻積、江差、北見小泉（以上新規）
 ◇中高一貫校 北星学園女子、函館白百合学園
 ◇高校 札幌静修、東海大付属第四、寿都、旭川実業、沼田、静内農業、浦河、別海、留辺蘂（以上継続）旭川商業定時制、滝川西、稚内、登別大谷、苫小牧西（以上新規）
 ◇その他 吉田学園医療歯科専修学校、岩見沢医師会付属看護高等専修学校（以上新規）

神奈川新聞は、N I E 推進協議会の活動状況を印刷物ではなく、ネット上のホームページで県内に広く PR している。特に今年度から、実

践校の紹介を目玉にするなどホームページの内容を充実したところ、大学生にもアクセスが広がり、反響を呼んでいる。

県推進協のホームページ刷新



実践校の授業内容が詳しく分かり、アクセスが増えているホームページ

「推進協のホームページはデータが全く変わっていない」とてもではないが、読める代物ではない。そんな先生方のおしかりを受けて、06年度の神奈川県NIE推進協議会の活動事業計画の中に「ホームページの刷新」を新たに打ち出した。

写真や図版多用

推進協の新しい予算の中で、2、3年前の名簿ぐらいいしか載っていないホームページの刷新はできるのか。IT音痴の当方は懸念したが、それは杞憂に終わった。事務局の販売局開発管理部次長は記者、カメラマンの経験者で、しかもメディア局(当時)にも在籍していたマルチ人間。取材、執筆、ホームページへ

神奈川新聞社

実践授業ネットで紹介

のアップも1人で担当した。

目玉は実践校の授業風景。06年度の県内の実践校は21校だが、これまで横浜国大附属横浜中学校など4校の実践授業をアップしている。ホームページだと、字数に制限なくアップでき、写真や図版も多く使える。そんなボリュームたっぷりの紹

いま 神奈川で

介に、学校からも「丁寧に紹介していただき、ありがたい」との言葉をいただいた。担当者は「原稿執筆と同じような感覚でできますよ」と頼もしい。

大学生も注目

こうしたホームページを見て、2組の大学生が本誌を訪ねてきた。卒論のために驚いた。卒論を聞きたいという。北

編集後記

○…高校NIE研究会全国大会の記念講演で、メタ認知の形成を指摘した藤澤伸介教授は「ノートを取れない、誰かの解説がないと難解な本を読みこなせない大学生が増えている。原因は高校教育にある」と嘆いていた。

○…講演後、高校教諭たちから、考えずに板書を写したり、機械的にワークブックを埋める生徒が多いと聞いた。彼らに自分の習得状況を理解させ、習得方法を自ら考えさせるにはどうすべきか。

○…道内の先生たちの発表はその答えを示していたと思う。山本かおり教諭による新聞制作での細かな文章指導。高瀬容子教諭の「相手を意識し、相手に伝えたいと思う心」を育てる1分間スピーチ。

○…心眼を養うには自分自身が情報の発信に携わることが必要と思っている。記事を書いたり、意見を発表することは、メタ認知能力の形成につながる。(小)

日本新聞教育文化財団主催、岡山県NIE推進協議会と山陽新聞社主管の第12回NIE全国大会が7月26、27の両日、岡山市・岡山コンベンションセンターで開かれる。「学びあい 世界を広げるNIE」を大会スローガンに、全国各地か

7月26、27日に
NIE全国大会
岡山

お知らせ

北海道NIE推進協議会(会長 山田家正小樽商大名誉教授)の本年度総会は6月9日午後1時から北海道新聞社7階特別会議室で開かれる。終了後、教員組織の北海道NIE研究会(会長 日下部憲一・札幌宮の森

協議会と研究会
6月9日に総会

らNIE実践教諭のほか教育、報道関係者らが参加する。26日は午後1時開会式のと、作家・重

海道などNIE先進地域に比べ、神奈川はまだ途上だと思える。それでも注目してくれる人がいるのは、推進協に携わっている者として大いに励みになった。

ネット社会の進展は避けられない。新聞人として、紙媒体の新聞を愛してもらいたいが、まずNIEを知ってもらう手段としてネットの活用も必要と思う。ちなみにグーグルで「NIE 神奈川」と検索すると、当協議会のホームページが一番上に出てきます。(鎌田良一・読者広報ゼンター長代理)

中学校(長)の本年度総会も同会場で開かれる。協議会総会では、07年度の道内NIE実践校の認定推薦などについて協議し、向こう1年間の活動計画、予算などを決めるほか、参加者の交流を深めるため、NIE活動に取り組む教諭による実践発表などがある。研究会総会では、07年度の活動計画、予算を決め、役員を改選する。

松清氏の記念講演「言葉の力」があり、続いて「NIEの魅力再発見」新聞を通して伝えてきたものをテーマにパネルディスカッションなどが行われる。27日午前は小、中、高校の分科会ごとに、公開授業やワークショップ、研究討議、実践発表があり、午後12時半から全体会・閉会式が行われる。参加、詳細の問い合わせは岡山県NIE推進協議会 ☎ 086-2244-3954 へ。